



上下門の水天宮さん

津奈木町大字千代地域は今から三億年前頃は硯岩が堰堤と成り、湖であったのではな
いかと想像できる。
地中深く掘り下げて
地質も検討して判断
されるが、今は千代
川・清水川・川内川
の溪流三川で流下し
ている。この三川中、
清水について云えば
三川の合流点から約
七〇〇米上流に、水
の神様として水天宮
を奉司している。こ
の水天宮神殿の真下
から、一日五六頓
の地球上最高の清水
が湧出している。湧
出量も多く水質にも不変の浄水に
上下門の地域住民は太古の大昔か
ら、生物全般の助けの神水として
有難さを感じ、水の不自由さを知
らず、生き延びてきたものである。
昭和三十六年頃より水道施設の
必要性が地域住民の大なる課題と
なり、当時の村長であられ、四十
五町歩に及ぶ津奈木湾干拓を計画
通り完成下さった今は亡き齋藤藤

私のふるさと

清水の水天宮さん

吾様が、この清水の水道施設に住
民の熱意を感じ、特別な御配
慮をいただく。更に、水道施設上
必要な水源地や貯水量二十四頓の
貯水地等に要する用地全部を無償
で提供された福島円太氏の熱意に
全住民感動した。直接工事費一二
五万円の各家庭の負担が、二万円
であったか三万円であったかはは
つきりした記憶がな
いが、現在三十年以
上も経過している。
水道の維持管理の
全責任を私心を捨て
毎月の水質検査から
住民の知らない万事
万端に及びお世話下
さる竹田昭二氏のご
配慮についても地域
住民一同深く感謝し
ている。この竹田氏
のお話しを承ると、
貯水池の拡大も当然
なれど、大きな水道
管と取替えないと水
質汚染化の問題並び
に国道三号線を渡す問題工事費増
大の件、水天宮地域一帯蜜柑生産
上、多年にわたり害虫駆除済散布
による地中浸透水が水天宮の水に
混入していないか等々、山積する
難問を解決し、上下門住民に天与
の清水を子々孫々、後世永く日本
一の廉い清水を継承させ、上下門地
域の独自の水道運営が住民の願望
である。

一言

近年、町の活性化が盛んに叫ば
れ、いろいろなアイデアによって、
町全体が整備されつつあることは
周知の通りである。活性化のため
に施設を設置したり、イベントを
開催したり、諸種の事業を行うに
は、相当の経費が必要である。
そこで、お金をかけないで活気
のある町づくりはできないものか
と考えてみた。それは、整然とし
た環境づくり、美しい景観の形成
であると思う。
道路を通っていると、周辺にい
ろんな物が無造作に置いてあった
り、雑草が生い茂っていたり、ゴ
ミが点在していたり等する。私ど
も身の周りに時たま見られる光
景である。これらは私どものちょ
っとした注意や心掛けによって美
化できることである。みんなの協
力で環境美化にあたってみてはど
うだろうか。
景観整備条例を制定し、環境美
化に取組んでいる都市もあるが、
そこまで大がかりでなくて、私ど
もに出来ることを先づ、自分の足
元から始めていけばよいのである。
その場に調和する状態に保つこと
が必要である。ちっぽけな考えで
あるが、美しい景観を作り出して
行くことにより、私どもの気持が
生き生きとなり、明るい町づくり
につながると思う。

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111(代)
印刷所 旭印刷
電話(水保) 84101番



斉藤 治さん

平成3年度 町民体育祭総合得点表

番 号	地区名 種 目	竹	染	浜	桜	町	新	古	大	中	古	倉	内	上	川	福	平	平	日	日	小
		中	竹	崎	戸	中	川	川	泊	尾	中	尾	谷	野	下	内	浦	国	国	当	添
1	男 子 ソフトボール	(雨 天 中 止)																			
2	女 子 ミニバレー	14	11	5	8	8	8	8	5	14	8	11	8	20	／	8	8	5	11	17	11
3	野 球	11	8	8	8	8	11	5	17	14	8	11	14	5	8	5	11	20	8	5	8
4	競 舟	14	28	15	11	14	22	19	30	19	19	19	22	22	14	28	28	28	28	29	23
5	陸 上 競 技	11	13	6	15	1	10	8	16	12	7	6	4	14	2	19	3	17	18	20	10
(10月10日) 総 合 得 点		50	60	34	42	31	51	40	68	59	42	47	48	61	24	60	50	70	65	71	52
総 合 順 位		11	⑥	18	15	19	10	17	③	8	15	14	13	⑤	20	⑥	11	②	④	①	9

スポーツの秋 町民体育祭

陸上競技大会



秋晴れの「体育の日」、今年の町民体育祭の最後を飾る陸上競技大会が、総勢二千五百人余りの町民が参加して開催されました。
各地区選手団が力強く入場行進後、宮嶋弘行さんがユーモアを交えての選手宣誓で大会の幕が開けられ、小学生リレーに始まり、地元デント前を走る選手に身をのりだしての声援、幼児リレーでは父母だけではなく、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に伴走等、なごやかな中に午前の部が予定より三十分早く終了しました。
昼食時には、津奈木保育園、平国婦人消防クラブの皆さんが放水競技を披露して下さいました。
なお、昼食時間に突風が吹き、各地区のデントが倒れて、思わぬ事故が発生し、古川地区の山下マサエさんが重傷、外3名の方が軽傷を負われ、山下マサエさんは十月十八日に亡くなりました。
大会も、思わぬ事故で午後の部は中止となりました。
今後は、このいたましい事故を「よし一番になつてやるぞ」



内野レデスチームの皆さんです

文化祭のご案内

(11月9～10日開催)

津奈木町文化協会では、今年も次のとおり文化祭を開催します。
町民の皆さまのご参加をお待ちしております。

【展示部門】
9日・10日午後3時まで(B&G海洋センター)
絵画・書道・写真・陶芸・寒蘭・菊花・生花・手芸。
地名研究会の資料展示等

【発表部門】
10日午後7時開演(文化センター)
日舞・吟詠・歌謡等

【囲碁部門】
9日午後1時から(文化センター)
囲碁大会

九州地区公民館大会に参加して

森 山 勝 喜

平成三年九月十八日・十九日、第四十二回九州地区公民館研究大会が長崎市で開催されました。
「生涯学習社会を創造する公民館活動を求めて」をテーマにかかげた大会の初日は、分科会があり、私は第八分科会へ参加しました。
この会は、四百四十二名の参加者があり、公民館活動の事例発表で始まり、質疑、応答、討議が行なわれ、第一日を終了しました。
自治公民館における生涯学習の推進についての事例では、地域住民が「集い」「学び」「つながる」とにより、教養、文化、スポーツなどの活動をとらえて、住民の融和と親睦が図られ、生涯学習の第一段階は達成できたという評価し、今は人づくりに努めたいとのことでした。
二日目は、長崎市公会堂に於て、アトラクション、全体会、記念講演で二日間の幕を閉じました。心に残ったアトラクション、長崎市竹一自治公民館学習グループによる大正琴の美しい音色の演奏は、素晴らしいものでした。もう一つは、保育園児による子ども龍踊で、郷土芸能として、この子ども達により次代へと、伝承されて行くことでした。
記念講演は「現代をどう生きるか」の演題で、県社会教育委員長竹下先生の講演で、豊かで便利な時代にメスを入れ、有意義なお話は、盛況のなかで、文化の香り高い長崎を後にしました。

